

# 第 52 回国際木材保存会議 (IRG52) 日本開催について

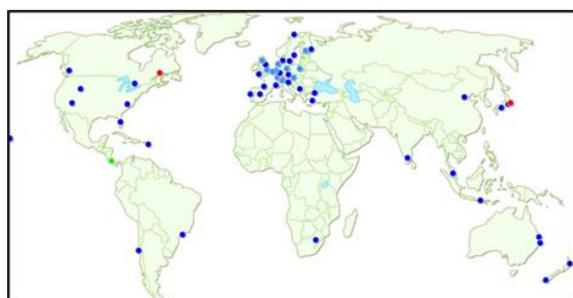
今 村 祐 嗣\*

## 1. はじめに

2021年5月9日～13日に静岡県沼津市にて開催予定の国際木材保存会議(The International Research Group on Wood Protection:以下IRGと略)の日本大会(IRG52)の準備を進めています。しかしながら、2020年6月開催のIRG51スロベニア大会が、コロナ禍のため開催日を2日間(各半日)に短縮してのオンライン会議となったように、2021年の大会に向けても、会議の運営以外に感染症対策という難しい課題を背負っての作業になっています。

## 2. 国際木材保存会議について

IRGは、1965年にオーストリアで発足した木材保存の専門家グループを母体とし、1969年に経済協力開発機構(OECD)により設立された伝統ある組織です。事務局は、1969年から1979年までは英国の建築研究所に、1979年からはスウェーデン国立研究機構(Research Institutes of Sweden:RISE)に置かれています。当初の会員は9か国22人でしたが、現在は51か国350名の会員からなる国際的組織です。



第1図 これまでのIRG年次大会の開催地

IRGの事業目的は、木材保存に関する研究を世界的に推進することであり、具体的には、1) 木材

保存に関する科学技術情報の国際的意見交換のための年次大会の開催、2) 若手育成のための奨励賞の授賞、3) 共同研究の補助、4) 規格・ガイドライン作成のための場の設定、5) 研究成果の素早い公表・普及です<sup>1), 2)</sup>。

もっとも重要な目的である年次大会は、世界各国の持ち回りによりで行われています(第1図)。アジアで始めてとなる大会(IRG22)が開催されたのは1991年5月、京都市の「国立京都国際会館」で、京都らしい“もてなし”も加味され大変盛り上がった国際大会になりました<sup>3)</sup>。同時通訳が配置されたこともあって日本からの参加者や発表も多く、木材保存分野の国際交流の推進に大きな役目を果たしました。また、それから丁度10年後の2001年5月には、鹿が自由に行き交う奈良公園の中にある「奈良県新公会堂」でIRG32が開かれ、メインセッションが行われた能楽ホールでは発表者は靴を脱いで総ヒノキ舞台の壇上に上がり発表を行いました<sup>4), 5)</sup>。奈良大会の開会式には秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り、開会にあたってのお言葉を頂きました。

その後、暫く途切れていたため、2010年代の初頭より日本での開催が打診されてきました。それを受けて、(公社)日本木材保存協会では2017年にIRG組織委員会(第1表)を設立してIRG本部に対して日本大会を申請し、2021年の開催に至りました。当初の予定では、2020年の東京五輪の翌年ということも視野に入っていました。

組織委員会(LOC)は、開催国を代表してIRG本部との意思疎通を図ることや、国際及び国内からの財政的援助を受けるためのスポンサーを募ることなどを主要な任務として活動しています。一方、開催のための諸作業を行う部門として、IRG実行委員会(木口実委員長:日本大学教授)を設

\*IRG組織委員会委員長 京都大学名誉教授

置しました<sup>6)</sup>。

第1表 IRG組織委員会のメンバー\*

氏名	所属
委員長 今村祐嗣	京都大学 名誉教授
委員 尾崎慶太郎	日本木材保存剤工業会 会長
木口実	日本大学 教授
金城一彦	日本しろあり対策協会 会長
鮫島正浩	日本木材保存協会 会長
関澤外喜夫	日本木材防腐工業組合 専務理事
藤井義久	日本木材保存協会 副会長
船田良	日本木材学会 会長
松永浩史	森林総合研究所 木材保存研究室長
財務 鈴木昭	日本木材保存協会 事務局長
渉外 山本幸一	日本木材保存協会 参与

\*鈴木滋彦委員 (2020 年より) : 静岡県立農林環境専門職大学学長

### 3. 会場の概要

今回の開催地は、日本を象徴する富士山と海が見える所が良いとのご意見を頂戴し、その両方を満足する静岡県沼津市と決め、会場は木材が多く使用されているコンベンションセンター「プラザヴェルデ」としました。2014年にオープンしたこのセンターは、「平成26年度木材利用優良施設」として林野庁長官賞を受賞しています。研究発表会場である大ホールの内装仕上げには、静岡県産



写真1 木材の美しいプラザヴェルデの大ホール

のスギ材が貼られ(写真1)、エントランスと各階ロビーには、県産のスギ丸太が列柱状に多数配置され、スッキリとした木質化が印象的な施設です。

使用されたスギ、ヒノキの総材積は約163 m<sup>3</sup>だそうです。一方、IRG52のロゴは、富士山と松林をモチーフにしました(第2図)。



第2図 IRG52日本大会のロゴ

### 4. プログラムと特別セッション

例年の発表件数は、口頭発表が100件、ポスター発表が30件の130件程度ですので、IRG52でもその程度の発表件数を想定しています。

初日の開会式の後、基調講演、メインセッションとして5つのカテゴリー(1:生物学, 2:規格・分析法, 3:保存薬剤, 4:処理方法, 5:環境問題)から選ばれた5つの代表論文の発表と全員参加での意見交換が行われます。午後からは、2会場で種々のワーキングセッション(例えば、野外暴露試験、室内腐朽試験、処理方法と処理性、表面処理、修飾木材、品質管理、素材耐久性、耐用年数予測木橋、環境と持続性、など)が行われます。この形式のセッションが、大会中行われます。

最終日(13日)の午後には、全員参加による特別セッションがあり、「表面処理と耐候性」、「海虫の被害」、「CLTの保存処理と耐久性」等がテーマの候補として挙がっています。

いずれにしても、国際学会にありがちな学術面一色ではなく、「木材保存を取り巻く世界のトレンドを企業の技術開発の観点からも見渡せる」ことに特色があります<sup>1),2)</sup>。

### 5. 各種イベント

開催初日（9日）にはウエルカムレセプションが行われます。最近では、ホテルのプールサイドや会場の中庭など屋外で開催される例もあることから、IRG52では会議場5Fの屋上庭園で開催することにしました（写真2）。天候が良ければ愛鷹山越しに富士山の頭を望むことができます。



写真2 プラザヴェルデ5Fの屋上庭園

2日目にはIRG会長主催のレセプションが、ロン・コックロフト賞受賞者（RCA）、新会員、IRG役員などを招待して開催されます。RCAは、年次大会毎に12名ほどの若手研究者に授与され、近年は日本の受賞者も増えています。

3日目の夕刻には、ポスターセッションがロビースペースを利用して行われます。会場では簡単な飲食の提供を考えており、ポスターを前にして気楽な雰囲気での議論を進めたいと思っています。

4日目は午前の口頭発表が終わると、エクスカーションに出発します。富士山を中心に周辺の観光地、名所を巡ります。なお、訪問予定の富士山世界遺産センターの建物はウッドデザイン賞2018特別賞「木のおもてなし賞」を受賞しており、県産のヒノキ材を用いた木格子が「逆さ富士」の外観を現しています（写真3）。最終地は御殿場ビール園で、和気あいあいの中、夕食を楽しんで頂くことを考えています。

最終日の夕刻には、会場から徒歩で15分程の狩野川の眺めが美しいリバーサイドホテルにて、バンケットを開催します。バンケットでは地元の芸能などの催し物を予定しております。



写真3 富士山世界遺産センターの外観

## 6. スポンサー

大会の運営には、スポンサーのご支援が欠かせません。日本大会においては、既に国内の団体・企業から多くのご協力を頂戴しています。この場をお借りして、御礼申し上げます。この後は、国際スポンサーとして例年ご支援頂いております企業・団体様に、協力をお願いして参ります。なお、協賛頂きましたスポンサーの企業・団体名は、掲示板や発表の合間に映像スクリーンで公表して謝辞を表明して参ります（写真4）。



写真4 南アフリカ大会時のスポンサー名の映像

## 7. 大会参加と発表申し込み方法

2021年の1月頃より参加登録や各種の受付が、IRG本部のホームページ（<https://www.irg-wp.com/>）で開始される予定です。IRG本部のホームページを開きますと第2図に示しました「IRG52 日本大会のロゴ」が表示されていますので、そこをクリックして下さい。メ

ニューが表示されますので、参加登録する場合は Registration をひらき、氏名・所属・メールアドレス・クレジット番号など必要事項を記入して送信すれば完了です。その他のお申し込みも同様です。

なお、研究発表には口頭発表とポスター発表があります。IRG では総合的な討論が重んじられるため口頭発表が多いのですが、若手研究者ではポスター発表も多いようです。口頭発表の研究論文は、所定のフォーマットによるフルペーパーが求められ、締切は2021年3月1日です。一方、ポスター発表は要旨(1~2頁でも可)のみで受け付けられ、締切は2021年3月15日です。近年はポスター発表も重視する様になりましたので、国際会議に気楽に参加するのは良い方法かもしれません。

## 8. 「一日参加」の申し込み

日本大会では、この機会に国内の多くの方々に気軽にご参加頂けるシステムを考え、ローカルルールとして「一日参加」が IRG 本部により認められました。参加費用等の詳細は、8月に当協会のホームページ内に開設された IRG52 日本語案内版でご確認ください。木材保存の専門外の方も含め、多くの方のご参加をお待ちしています。

## 9. おわりに

文頭にも述べたように、今年の IRG51 は日程を短縮してオンラインで行われ、日本からは渡辺祐基氏(国立文化財機構九州博物館)と近藤里沙子氏(東京農工大学)が発表を行いました。時差の関係で、日本時間では夜の9時から深夜にわたる会議でしたが、世界中から150名を越す参加者があったようです。

また、2日目の最後には次回開催地の日本を代表して、(公社)日本木材保存協会会長の鮫島正浩氏からの歓迎の挨拶がありました(写真5)。富士山の眺望、沼津漁港とコンベンションセンターの良さがアピールされ、京都大会からの伝統である「打ち出の小槌引継ぎ式」がバーチャルで行われました。



写真5 オンライン大会での日本大会の案内

IRG52 日本大会もコロナ禍での開催が見込まれるため、安全にご参加頂くための「三密」対策等を考えておりますが、感染拡大の状況を勘案して、Web 会議システムの併用、あるいは Web 会議システムでの開催等、大幅な変更もありうることを申し添えさせていただきます。

日本大会の成功に向けて、皆様方のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

## 文献

- 1) 松永浩史：国際木材保存会議 (IRG) から見た世界の木材保存研究の動向推移 I .IRG33(2002)~IRG37(2006)を対象に、木材保存, 44(2), 62-66 (2018) .
- 2) 松永浩史：国際木材保存会議 (IRG) から見た世界の木材保存研究の動向推移 II .IRG38(2007) ~ IRG40(2009) と IRG Americas Regional Meeting (2008) を対象に、木材保存, 46(2), 66-70 (2020) .
- 3) 原口隆英：第 22 回国際木材保存会議(IRG 京都大会)のあらまし、木材保存, 17(4), 23-31 (1991) .
- 4) 広報委員会：第 32 回国際木材保存会議(IRG32) 奈良大会へのご案内、木材保存, 26(6), 44-48 (2000) .
- 5) 藤井義久：IRG32Nara を終えて、木材保存, 27(4), 170-173 (2001) .
- 6) 木口実：第 52 回国際木材保存会議(IRG52)に向けた IRG 実行委員会の活動について、木材保存, 46(5), 264-268 (2020) .